

APBA News

第3号

特定非営利活動法人 アジア
失明予防の会 (文責 竹岡)
http://www.asia-assist.or.jp/
APBA2010@gmail.com

服部先生の活動予定 (5月~8月)

・ベトナムにて

5月

- ・ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導
- ・『Save the Vision』プロジェクトの一環
ティンクアン省の総合病院にて、貧しい人々に対して無償の白内障手術を実施の予定 (80人)

6月

- ・ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導
- ・『Save the Vision』プロジェクトの一環
クアンニン省のイエンフン総合病院にて貧しい人々に対して無償の白内障手術を実施の予定 (80人)
- ・ハノイボランティアネット主催、ピナ800他協賛による、ベトナム人バイオリニストによるチャリティーコンサート開催予定 (後述)

7月

- ・ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導
- ・『Save the Vision』プロジェクトの一環
カインホア省の87病院にて、貧しい人々に対して無償の白内障手術を予定 (80人)

8月

- ・ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導
- ・『Save the Vision』プロジェクトの一環
フエ市のフエ眼科病院にて、貧しい人々に対して無償の白内障・硝子体手術を実施の予定 (30人)
クアンニン省のドンチオ総合病院にて、貧しい人々に対して無償の白内障手術を実施の予定 (80人)

・ラオスにて

7月

- ・ビエンチャン国立眼科病院にて、眼科医療技術の教育・指導、及びチャリティー手術実施を予定

服部先生の活動実績報告 (1月~4月)

1月

- ・ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導
- ・『Save the Vision』プロジェクトの一環
ビンフック省 (南部) の総合病院にて、貧しい人々に対して無償の白内障手術を実施 (90人)

2月

- ・ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、ハイ

フォン市総合病院にて、眼科医療技術の教育・指導

3月

- ・ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導
聖マリアンナ医科大学の学生、平田さんと小関さんがボランティア活動に参加
- ・『Save the Vision』プロジェクトの一環
フエ市のフエ眼科病院にて、貧しい人々に対して無償の白内障・硝子体手術を実施 (34人)
クアンニン省のティンイエン総合病院にて、貧しい人々に対して無償の白内障手術を実施 (81人)

4月

- ・ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導
看護師の竹下さん、福岡さん、佐野さんら3名と一般参加の奥村さんがボランティア活動に参加
- ・『Save the Vision』プロジェクトの一環
バクカン省の総合病院にて貧しい人々に対して無償の白内障手術を予定 (80人)

服部先生から地方での活動の便利

1. ビンフック (Binh Phuoc) 省での活動紹介

ホーチミンでの空港の様子です。医療資材を満載したダンボールや荷物を地方病院の救急車に運びこん



でいる様子です。ちょうど患者さんをホーチミンの病院に搬送した後で、空港に立ち寄ってくれたそうです。

大きなワンボックスカーでないと大量の荷物と人が乗るスペースがなく、いつも2台の車が必要となります。地方によってはそこまで準備が行きとどかず、その場でレンタカーやタクシーを調達することもあります。



ビンフック省はホーチミンから約130キロ離れた内陸部の町で、車で約3時間かかります。カンボジアと国境を接していて、あと30キロも国道を走れば、国境に辿り着くということでした。ホーチミンから離れていて、これといった産業があまりないため、貧しい人が多い地域で、今回も100名以上の患者さんが治療に訪れました。

地方の病院に着くと、大勢の患者さんが待っていましたので、着替える間もなくすぐに診療開始です。



治療を受ける患者さんを手際よく診察していき、手術方法などを決めていきます。このときに、飛び込みの患者さんもいるので、きちり手術リストを作成し、ネームプレートと名前や番号を照合します。また、手術眼などを間違わないように、白いテープをまゆ毛の上に貼ります。

(後述)

私たちのプロジェクトは、ただ無償の手術を行うだけではありません。地方の医師の育成といった責務を負っています。実は、



この教育・指導がとても大変です。合併症が起きる前に代わってくれる地元の医師がいれば問題はありませんが、残念ながら合併症が起きてしまった場合には通常手術の3倍以上の時間とエネルギーが必要となります。ホーチミンの病院で治療しますと言っても、誰でも行けるわけではありません。その場ですべて解決する必要があります。

手術後の診察をしている様子です。まゆ毛の上に白いテープを張っています。これは手術眼を間違えないためです。ベトナム



ではよく手術眼ではない眼を麻酔するなどのトラブルがあります。そうした間違いをスタッフの誰も犯さないための工夫です。眼帯を外すと、どの患者さんからも笑みがこぼれてきます。手術後のことについて地方の患者さんは何もわからないので、現地医師が詳しく説明します。

朝食のフォーを食べている様子です。フォーはベトナムの主食なので、どこの地方に行っても食べることができます。味は地方によってかなり違います。



地方でのプロジェクトではなるべく火が通ったものを食べるように心がけています。以前、ドンナイ省のプ

ロジェクトで夕食に生の刺身がでたことがありました。刺身はこうした田舎ではすごいご馳走で、地方の医療保健局長のお墨付きでしたが、それでも食べることができませんでした。

2. クアンニン(Quang Ninh)省での活動紹介

3月はクアンニン省(ティンイエン地方)に行きました。ハノイから約250キロ、車で約7時間かかる山岳部の町です。ハロン湾を過ぎると曲がりくねった狭い道路が続きます。中国国境に近いために、写真



のような大型のコンテナ車が行き来し、2台がすれちがうことができず道を塞ぎ、立ち往生して1時間以上も渋滞することもしばしばあるそうです。

ティンイエンは小さな町で、ハノイで毎日聞こえてくるバイクや車のクラクションの喧騒からは想像もできないほど静かな町でした。去年、クアンニン省の医療保健局長より、この町に来ることを勧められ



た時には正直申し上げて、行くのが大変だという気持ちが先行していました。いつもプロジェクトに参加している現地スタッフでさえも躊躇し、辞退したスタッフもいたほどです。

こうした田舎ではいつもペンライトで患者さんの眼を診察するのですが、クアンニン省のアイセンターは以前私たちが寄贈したスリットランプを持ち込んでいました。田舎であるため、難しい患者さんが多く、一人一人リストと照合しながら注意深く診察をすすめます。写真のL



AM先生は私たちのグループが行く1週間前から現地に入り、泊まり込みで今回のプロジェクトの準備を進めてくれていました。

手術後の患者さんで診察を待っている様子です。中



には30~40歳代の働き盛りの若者も交じっていました。話を聞くと2年前から目が見えなくなり働けなくなり、病院で治療をするお金もなく、家でじっとしていたそうです。

今回のプロジェクトのうわさを聞き、3時間も歩いて病院に来たと言っていました。視力が回復し、また仕事ができると喜んで退院していきました。

聖マリアンナ医科大学の学生の平田さん(3年)と小関さん(1年)が、今回の活動に初参加しました。医学部の学生とはいえ、まだ臨床経験がありません。最初は何をしたらいいのかかわからず、傍で棒立ちしていることが多かったのですが、徐々に周りの環境



に慣れ、少しずつ自分のできることを見つけ動いていました。最後には手術のアシスタントにもつくほどに成長して、帰って行きました。

田舎では農業が主体の時給自足の生活をしている人々がほとんどです。こうした方々の年収は100ドル~200ドルと言われ、ハノイに行くことすら、距離的にも経済的にも難しいのに、白内障手術を受けるだけの治療費を捻出することはとても難しい状況です。今後もいろいろなところを回って、巡回診療を続けていきたいと思っています。

ボランティアに参加された学生さんからの便り

平田 有美恵さん(聖マリアンナ医科大学3年)

24日の深夜に無事自宅へ帰りつきました。ベトナムでの体験は、色々と考えさせられることが多く、いまだ自分の中で整理がついていないような心持です。素敵な機会をあたえてくださり、本当にありがとうございました。

ベトナムの方々にも本当によくしていただいて、感謝の言葉がつかえません。ぜひHUNG先生やHOAIさん、その他の先生やスタッフの方々にもとても感謝していますとお伝えいただければ幸いです。

先生の活動は、本当に大変で(お恥ずかしながら、昨日は疲労で丸一日寝ていました・・・)、精神的にも肉体的にもお疲れのこととは思いますが、しかし、実際に現地での活動を目の当たりにし、何が先生のエネルギーとなっているのか、その一端でも感じ取れたと思っています。

私は、今回行くことで、なにか天啓のように何かを掴めると少しながら思っていた節もありました。しかし実際にはそうではなく、ただ沢山の葛藤と自分の無力さ、不甲斐なさを身にしみて思いさらされました。でも今回の旅を通して、自分が正しいと思ったことを信じ、行動する、その強さを先生に見せていただいたような気がします。勉強させていただいた、と言うにはあまりにも自ら行うには難しいように思えてしまっていますが、全力を尽くされるその姿を一つの指標として目標としていきたいです。

今はただ、感謝の言葉があるのみです。本当にありがとうございました。

またベトナムに行けるチャンスがあれば、ぜひぜひ行きたいです!

小関 優歌さん(聖マリアンナ医科大学1年)

こんばんは。予定通り帰国し、先ほど無事に帰宅しました。

国立眼科病院の、患者さんとその家族でござったがえしていた光景や、地方の病院での患者さん一人一人の思い出(思い出という表現が合っているかはわかりませんが)、患者さんの家族の、恐らくお孫さんだと思われる男の子が不安そうな顔をしてたことなどなど...挙げたら切がありませんが、見て触れ合っ

て感じたこと全てが心に沁みていきました。地方の病院初日に診察にご一緒させていただけたことを本当にありがたく思います。

先生にはたくさんご迷惑をお掛けしましたが、このような貴重な機会と、ご指導をくださり、本当にありがとうございました。

チャリティークラシックディナーコンサート

服部先生の活動支援にと、過去2年間はホーチミンでピナB00(ベトナムの無料雑誌)によるチャリティーディナーパーティーが開催されていきました。今年はハノイでの開催となりハノイボランティアネット主催、ピナB00などの協賛により、フランス料理とバイオリンコンサートによるチャリティーが開かれる予定です。本当に毎年有難うございます。



6月5日、18:00~ソフィテルレジエンドメトロポールハノイにて。参加費:80US\$です。

ベトナムといえばバイク多さがすっかり有名ですね。初めてベトナムを訪問された方はどなたも先ずビックリされるのがこれでしょうか。ところで2009年の交通事故発生状況は、国家交通安全委員会の発表によると、発生件数12,492件(前年比3%減)、死者11,516人(同0.7%減)、負傷者7,914人(同1.9%減)とビックリの数字です。

85.5%は運転者の不注意によるもので、スピード違反や車線のはみ出しなどが大半を占めている。

因みに日本では、交通事故発生件数が736,160件、死者は4,914人(前年比4.7%減)、負傷者は約90万人です。

ベトナムでは死者が多いのに発生件数、負傷者が低い。死者の多い原因の一つは、救急活動や医療技術の差でしょうか。発生件数や負傷者の違いは警察力の違いとでもいえるのか。小さなものは事件にしない。泣く子も黙る警察です。兎に角ベトナムでは事故に気をつけましょう。